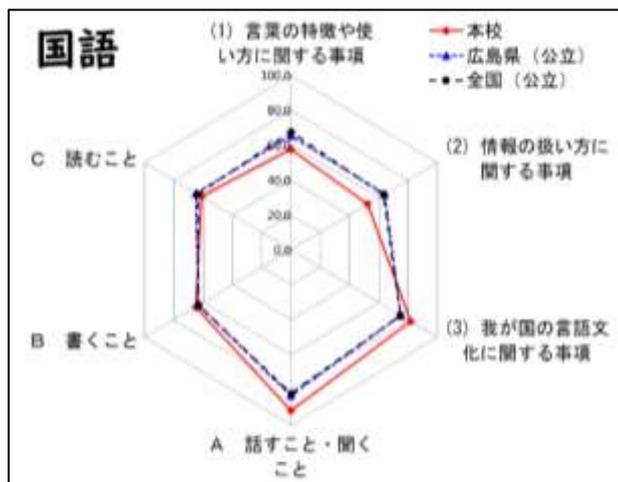


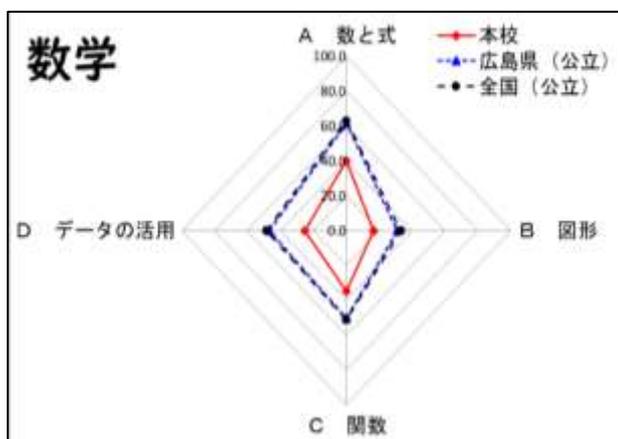
1 調査問題の分析・考察及び指導改善計画

	国語	数学	英語	英語「話すこと」
全国(公立) 平均正答率(%)	69.8	51	45.6	12.4
広島県(公立) 平均正答率(%)	70	49	43	-
<b>本校</b> 平均正答率(%)	<b>68</b>	<b>31</b>	<b>36</b>	<b>22</b>



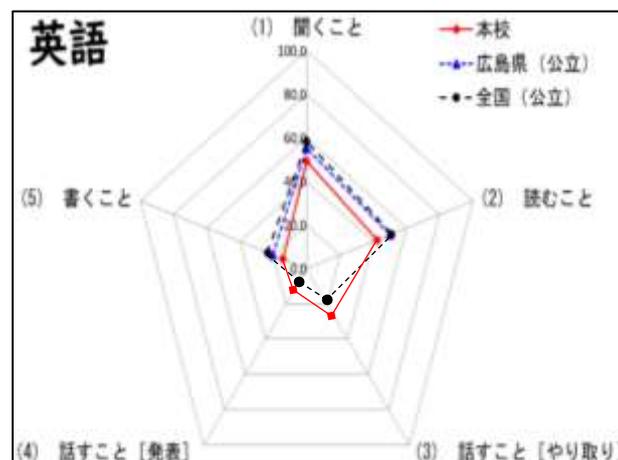
グループやペアを使った話し合い学習の効果が出ていると考える。その他の項目についても、概ね全国平均と同等の正答率があることから、引き続き授業改善や読書活動に取り組んでいく。

言葉や漢字を正しく使うことに課題が見られる。書いた文章を推敲したり、訂正したりする力を身に付けさせるため、読み比べや音読の回数を増やすなどの授業改善を行う。



いずれの領域も学習到達度には大きな課題が見られる。

今後の授業改善の方向性としては、全国平均正答率を大きく下回っている記述式の問題に対応するため、数学的な見方・考え方を働かせながら、論理的に説明する機会を意識的に増やしていく。また、問題を解いて終わりではなく、解答に至る理由を説明し合う授業展開を仕組みなど積極的に授業改善に取り組む。



全国平均との比較では、「聞くこと・読むこと・書くこと」の領域で下回っている。「読むこと」と「書くこと」の領域の設問では幅広い語彙や表現の使用が求められており、語彙や文法など知識の量が不足している。

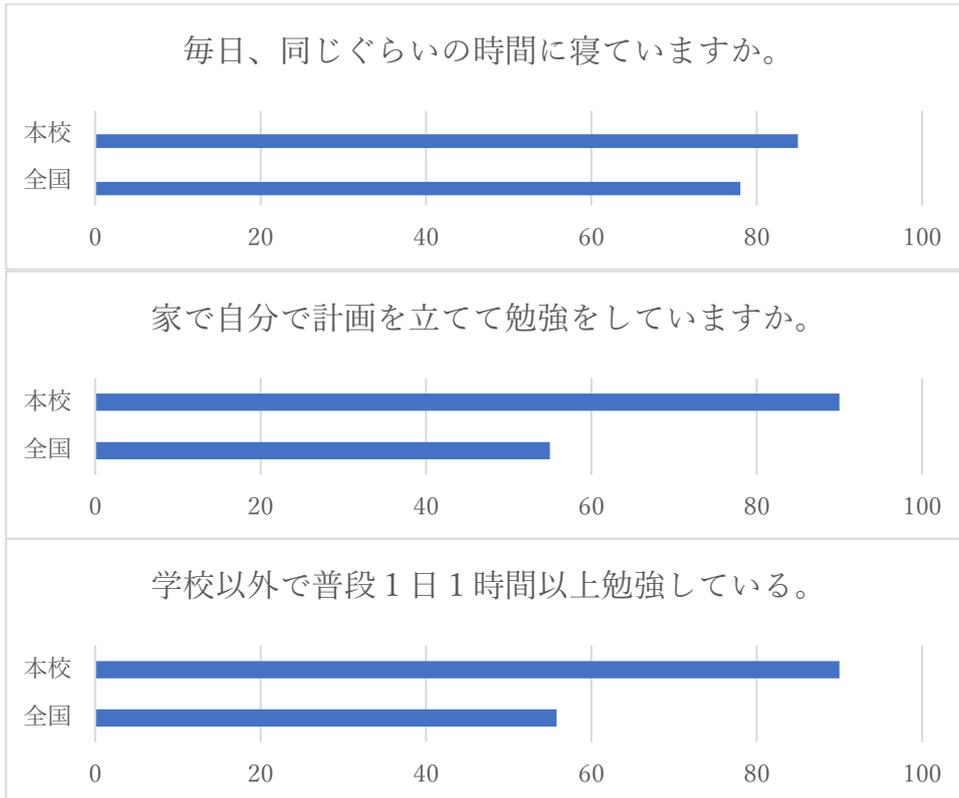
今後は、読む活動と聞く活動を増やし、活用につながる言語活動を根気強く行っていく。

また、英語検定や英語スピーチなど授業外での学習機会を勧めることで生徒の意欲を高めていく。

## 2 生徒質問紙の分析・考察及び指導改善計画

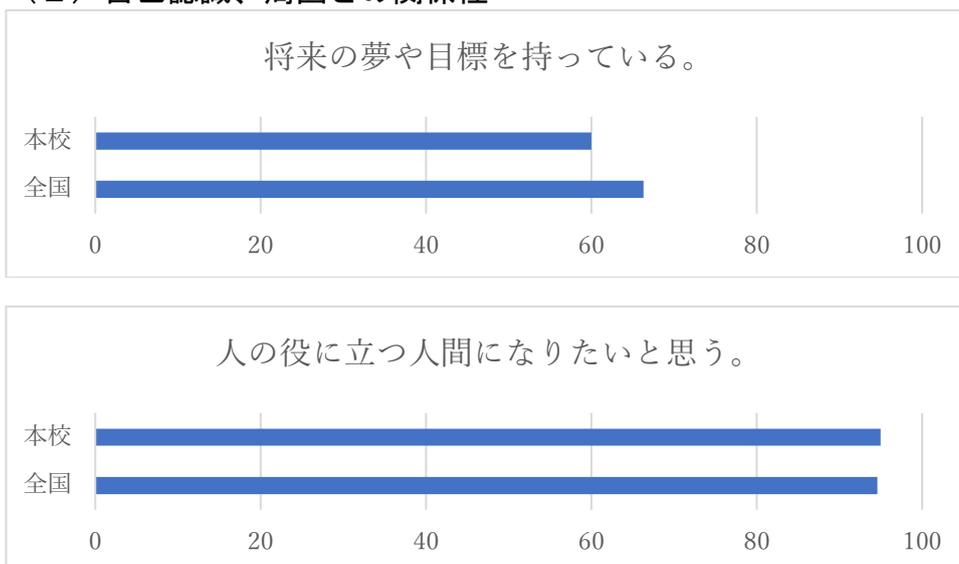
※グラフは肯定的割合(%)の比較

### (1) 生活・学習習慣

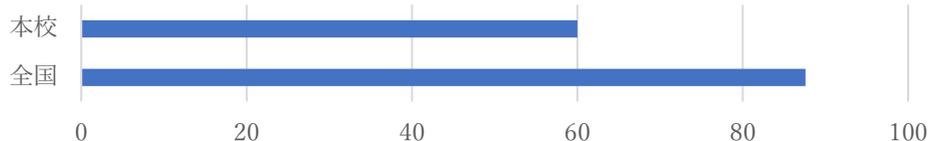


集計結果から、基本的な生活習慣は概ね身に付いていると言える。また、およそ90%の生徒が、毎日1時間以上の見通しをもった家庭学習をしていると回答している。その一方で、学力調査の結果には結びついておらず、反復学習に加えて、課題に対して深く考え、追究する学びにより、思考力・判断力・表現力を高めたい。

### (2) 自己認識、周囲との関係性



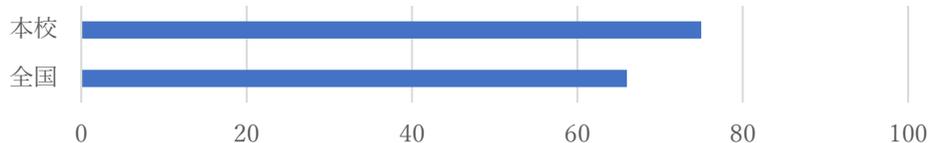
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。



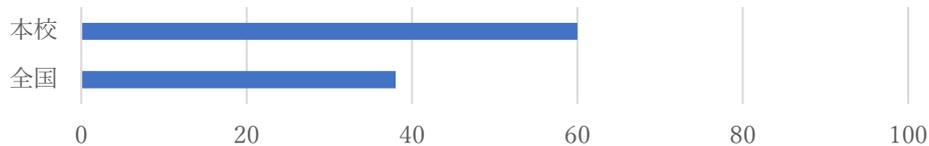
人の役に立ちたいと考えているものの、社会や集団に貢献しようとする行動は十分表に出てきているとは言えず、個性や考えの違いに興味をもったり、多様な他者と人間関係を築いたりすることにあまり積極的でない。自分の個性や特徴などを見つめ、自己理解を深めるとともに自己開示していくことが必要である。キャリア教育の視点をもって自らを見つめ、外部の人と関わる機会を増やすことで自主性を高めたい。

### (3) その他

読書は好きですか。



今住んでいる地域の行事に参加していますか。



読書に関しては、全国平均を上回る肯定的な回答があった。読書は、余暇の過ごし方の好例であり、スマートフォンやビデオゲーム、動画視聴に偏らない多様な余暇の過ごし方をさらに促したい。地域行事への参加にも前向きな回答が多く、地域に貢献しようとする態度が育ってきている。

なお、本調査結果は、学力の特定の一部であり、本校教育活動の一側面についての結果です。